

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

magazine kobekko
september 1966
no. 65

9

通巻六十五号 昭和四十一年八月十五日発行 毎月一回十五日発行
神戸っ子 昭和四十年一月二十日第三種郵便物認可 昭和四十一年八月十五日印刷



AKOISO

永遠の愛に

ミキモト ダイヤモンドリング

その華麗な不滅の輝きは

ご婚約 ご結婚の記念として

二人の愛を祝福するに

ふさわしい愛の宝石です



御木本真珠店

神戸店=三ノ宮・神戸国際会館

大阪支店=堂島・新大ビル

京都=ミキモトパール京都(新門前通り)

都ホテル・京都ホテル・京都国際ホテル

大阪高島屋・阪神百貨店

★本店=東京・銀座四丁目

これは神戸を愛する人々の手

神戸

たのくらしに楽しい夢をおくる
はやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です

絵——津高 和——

W. 7 Nov 7 a kg / 66

GUERLAIN PARIS

このたび、ミツコ、夜間飛行でおなじみの世界の超一流品ゲランの全製品を皆さまのお好みにあわせて本場バリの香りをお届けできるようになりました。「希望と幸福を招く香り」おしゃれのポイントをあなたの個性にあわせてセレクトしてください。ゴージャスなギフトボックス〈ゲラン謹製〉も用意いたしました。お好みの品々で、あなたの人柄、センス、をフランスの香りとともに先さまにおとどけてきます。



香水
ミツコ
¥ 4,600



香水
オー
ード
¥ 5,500



オー
デオ
ロン
夜間
飛行
¥ 3,500



ミツ
コ
¥ 10,200



タルク
パウ
ダー
¥ 1,200



本社★神戸<22>2603営業所★東京・名古屋

トランスグローバル

特約店★クロス★トア・ロード <39> 1781

美知子

田村美知子

(昭和四十一年度海の女王)

マッキンノン・マッケンジーKK勤務

撮影／春田佳章

書／山路 梓



今年の海の女王に選ばれた田村美知子さんは、去年松蔭女子高校を卒業して、船会社にタイピストとしてつとめる美しい神戸っ子。コインあつめが趣味。

「コインあつめといつても、観光で神戸にいらしたお客さまを案内してさしあげたとき、お礼にいただいたのがきっかけであつめだしましたの」とほえむ彼女。

シルバー・コイン、チャール・コイン、ケネディ・コインなど各国のコインの一つ一つに、案内してもらった田村さんへの感謝がこめられている。コインの他に、ドイツを中心に珍らしい外国切手も相当多い。それらを取り出して、一人で見つめるとき彼女の心は遠く海の向うにとんでいるのかも知れない。

164cm 45kgというスラリと伸びきった肢体。彼女があらわれると一瞬、パツとあでやかな雰囲気があたりを明るくする。一人っ子で家では甘えん坊だという。英会話の好きな彼女はミナト神戸のポート・ホステスとして、訪れる人の心をあたたくつつんでくれることだろう。

△二十才▽——田村さんの自宅で——

幸福を胸にきざむ華燭の宴はPORT-KOBEを望むニューポートホテルで!



* 衣裳
まや衣裳店
* 着付
みどり美粧



お見合いからご新婚旅行まで.....

* 挙式料 ￥14,000 (ご両家控室料共)

* ご披露宴 (お一人様) ￥3,000より (税金・サービス料共)

ご予約・お問合せは当ホテル涉外課予約係へ

ニューポートホテル

神戸/三ノ宮フラワーロード TEL (23) 4171 (代)

石見

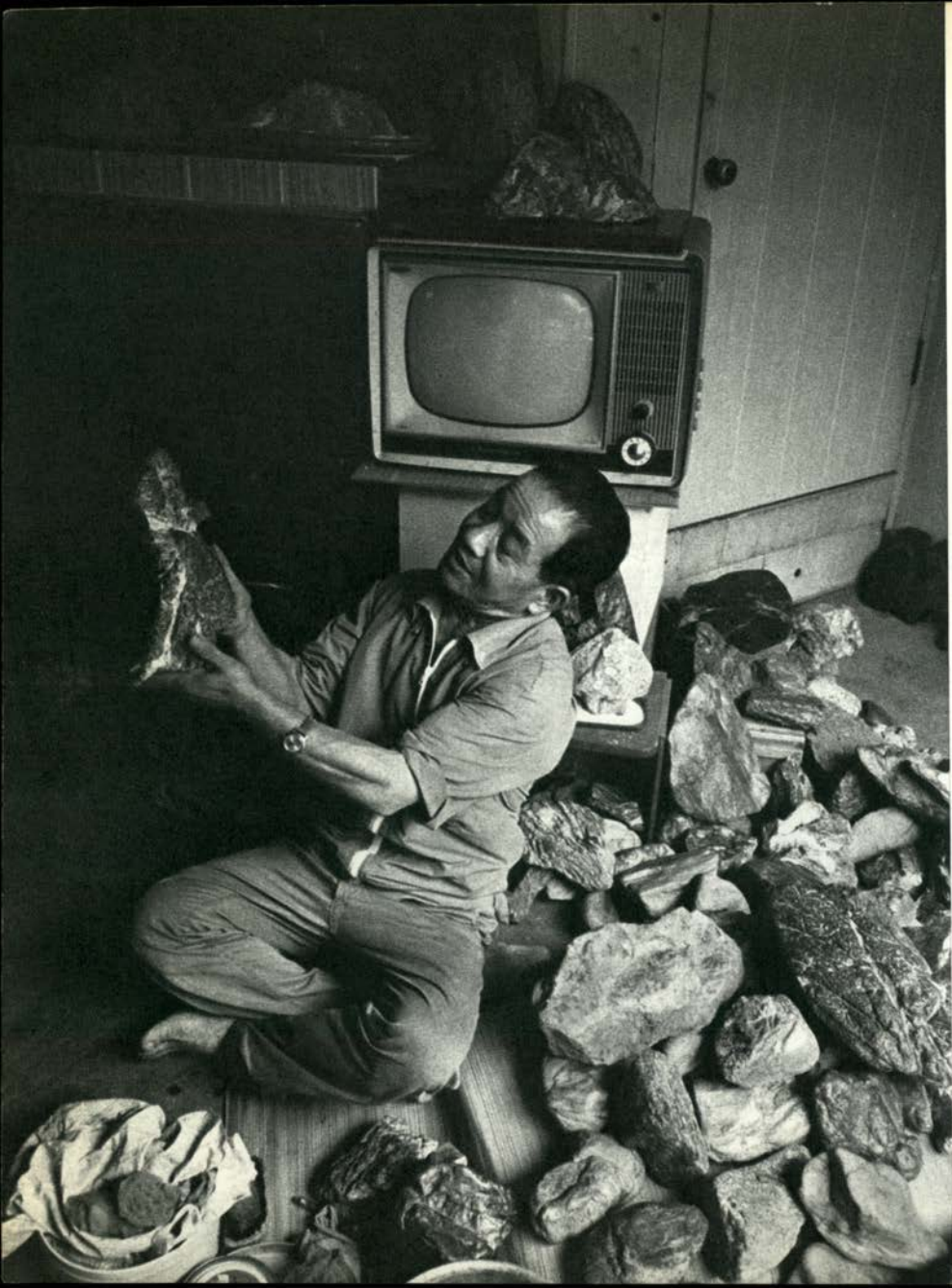
川上恒太郎

〈鯛公葬し店主・神戸愛石クラブ会長〉

カメラ／春田佳章

書／山路 梓

「石を見つけたときは、そもそも、わが子に逢うたよりも嬉しくおまつせ！」桂川の紅白の梅林石をみがくおやじの手は素早く力がこもる。神戸愛石クラブ会長といういかめしい肩書きは今年の三月に病膏首にいたってこのグループが結成されたときからだ。いつもは朝の七時から九時までのたった二時間というショートタイムでにぎりの勝負する三宮市場。鯛公のおやじである。このユニークな魚屋相手の葬司稼業。気みじかのへんこつおやじも、石を受するようになつてからは、アホかいな。といわれても何とも気にとめぬほど石はおやじの人生にうるおいをもたらせてくれているようだ。岡山・鳥取・四国・播州・京都などの山河を石をもとめて歩く。みつけた石はリユックに入られて40キロ程のものを持つて帰ってくる。精神をこめてみがく。みがきあげた石は情味あふれる自然の芸術作品だといふ。ところせましと並んだ石への愛着は、一個一個見つけた土地への想い出がこめられている。楽しくて仕方がないといった顔がほえましく、ブンと身体から匂う魚の香に鯛公のおやじの年輪がうるこのように光って見えた。六十二才。神戸愛石クラブの事務所は神戸大丸百貨店趣味の水石井沢泰山方へ生田区明石町四丁目



Pearls by Tasaki

TP

田崎真珠

本社・神戸市灘合区旗塚通6-9
三宮店・神戸新聞会館秀品店内

あなたに優雅な美しさをそえるタサキパール





メンバ―は、会社員、経営者、国鉄機関士、学生、芸能人と多彩である。日本て小型映画友の会は数多いが、全国て六番目に結成されたというのがこのグループ。無声時代から同時録音へ、機械の発達とともに技術的にも上達した。結

ある集い
 神戶小型
 映画友の会

成当時8人だったメンバーが今では60人を越えるそうだが、作品の内容が。人間性を深く追求できるようになりたい。のがみんなの共通した希望だそうだ。

写真左から豊田敬夫（会社員）小西修（会社員）田中慶一（塗料店主）谷本政太郎（国鉄機関士）田中喜代次（飲食店主）大野要範（運送店主）鍋谷力（無職）陳昇平（学生）本田裕信（会社員）竹村まこと（芸能人）長谷川守太（レントゲン技師）坂口吉弘（病院事務長）

Murata Pearls

清らかな気品を
花嫁のあなたに



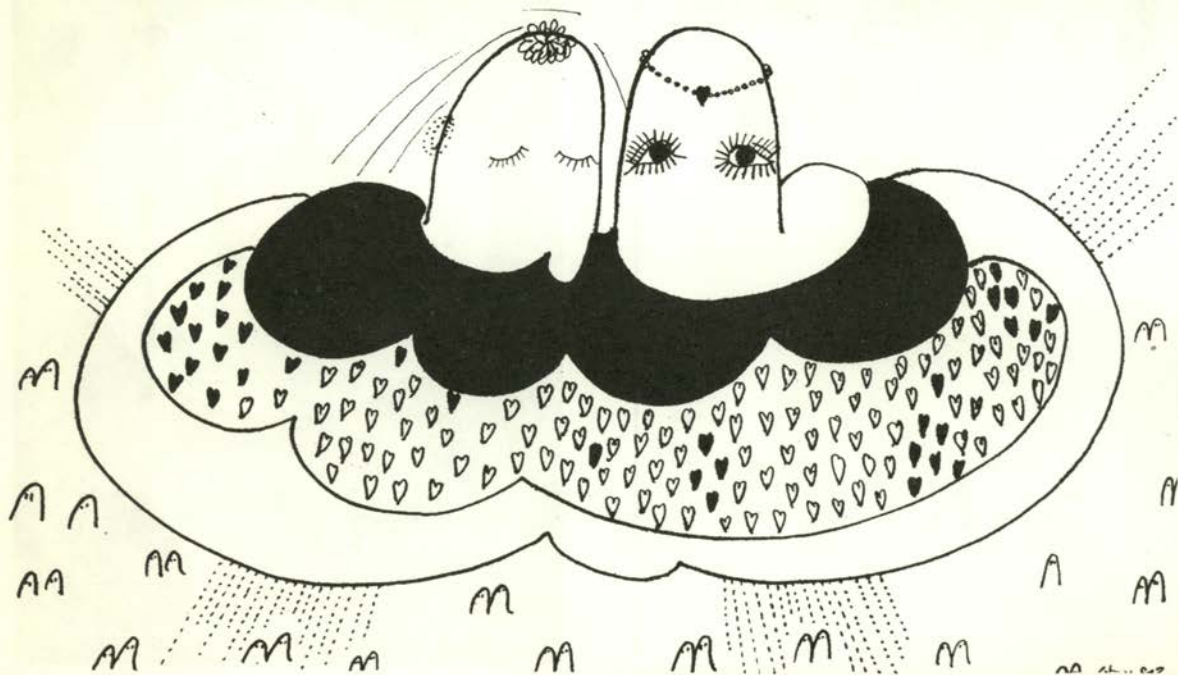
村田*真珠/銀座山岡*毛皮/舶来婦人服飾



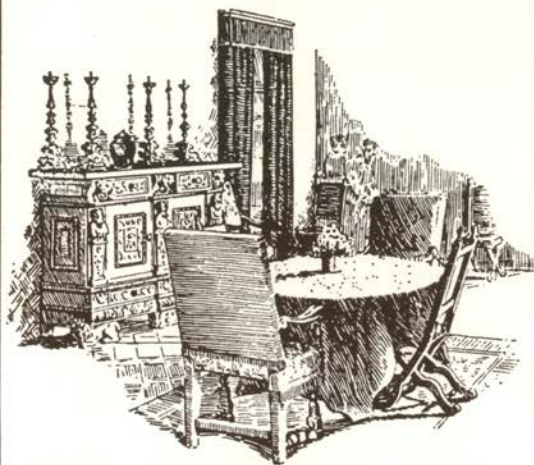
さんちか*レディスタウン・TEL 39-3886-7

9月号目次

- 1 Second Cover / 津高和一
 3 グラビア / 神戸っ子アングル・蒐める
 撮影・春田佳章 / 田村美知子・川上恒太郎
 7 グラビア / ある集い・「神戸小型映画友の会」
 わたしの意見 / 原宏道
 11 随想 / 旅人のふるさとカスキローナ・納健
 12 神戸の文化をすすめるキャンペーン
 「サラリーマンの生活の場」 / 津高和一
 14 「現代に密着した美術館を」 / 津高和一
 16 ある集い / その足あと / 本田裕信
 19 随想・古事記と維新と番町と / 平野一郎
 21 随想・私のふるさと / 小原稚子
 25 神戸経済座談会 / 砂野仁、玉井操、牛尾吉朗
 中内功、角南猛、南部圭三
 31 経済ポケットジャーナル
 33 神戸ドキュメント ⑧ / 福原・有井基
 39 神戸の文化をすすめる会
 CINEMA ② / 淀川長治
 40 KOBES SHIP LOUNGE ② / きく人・玉奥章
 44 動物園飼育日記 4 / 亀井一成
 49 神戸の集いから
 マドモアゼル神戸 / 福富芳美
 50 グラビア / 結婚特集・カメラ・菊池満
 77 神戸っ子物語
 日本人の心を誇りに・ビクター・J・デ・スーザ
 一本の糸にたくして・吉岡四郎
 83 れんさいまんが ⑧・ベッコ / 永井文明
 89 神戸遊戯誌(36)・卓球 / 青木重雄
 90 神戸うまいもん巡礼 No. 66 / 赤尾兜子
 92 ポケットジャーナル
 94 INGO コーナ
 99 神戸っ子ひろば
 101 異人館物語・連載第二話 シーメンス事件 ⑤ 小山牧子
 102 連載小説第七回 / 兵庫の女・武田繁太郎
 112 PHOTO POEM 愛する
 117 詩 / 安水稔和・カメラ / 緒方しげを
 120 グラビア / 神戸銘店抄・陳舜臣
 表紙 / 小磯良平・カメラ / 米田定蔵・赤松慶三郎
 レイアウト / 中辻悦子



家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { (39) 3 7 3 7
3 7 3 9 }



を
菓子
の
ツ
の
いとるイ
顔飾ド
風

バウム・クーヘン
ビスケット
キングケーキ
フランクフルター・克蘭ツ



ドイツ菓子

Faehreim's

ユー・ハイム

本店 神戸三宮生田神社前
TEL (39) 1694・8064
三宮店 神戸大丸前市電筋
TEL (39) 2101 (39) 3808
さんちか店 三宮地下街スイーツタウン
TEL (39) 3 5 3 9

東京/銀座店・渋谷店 その他全国有名百貨店

〈わたしの意見〉

産業・観光道路の
六甲隧道トンネルに



原 宏 道

(市道路部建設課
工事第3係長)

——六甲隧道トンネルの貫通おめでとうございます。完成すれば裏六甲との交通が便利になるわけですね。

「六甲山を境として、裏六甲の人口密度は急激に増え、裏六甲開発の総合計画によってますます開けていくでしょう。このトンネルが完成すれば従来車で50分かかっていたところが、約20分も短縮され、非常に便利になるわけです。それに加えて厳冬期になるとドライブウェイは凍結し、危険な状態になる場合が多かったのですが、その心配もまったくなくなります。六甲隧道トンネルは全長2843崩、幅8崩で路面はコンクリート舗装され、トンネル内はナトリウム灯の40ルクスの明かるさ。裏六甲側の入口は神戸電鉄の「六甲登山口駅」付近で、海底を走る「関門トンネル」、東京中央線扱いにある「笹子トンネル」に続いて日本の道路トンネルでは第三番目のトンネルといわれています。

六甲隧道トンネルの場合は、産業道路と観光道路の両面の要素を持っており、将来、神戸の期待される道路となるでしょう。山陽新幹線も六甲を通り抜け、平野—有馬線にバイパスがつくられています。表と裏を結ぶ道路がもっともっと建設されていいと思います。」

——新しい工法、工事のご苦労？

「特に新しい工法はありませんが、上部半断面先進工法といって天井の部分を先につくり、床の部分をあとから掘るという工法を使っているわけです。トンネル内の換気問題でかなり制限を受けるので「半横流式換気」を施工者が考案してずいぶん助かりました。

二十年前にトンネル工事で経験したときから考えると機械力の発達もあり、六甲の山が全山花崗岩からできており、石質が硬く、トンネル工事は硬い方が掘りやすいことから楽だったといえます。一部悪質な断層につきあたり、どうなることかと思いましたが、幸いその断層が浅かったため工事を進めることができました。裏工区は落盤が多く、心配されましたが、現在の段階までは一人の犠牲者もなく、喜んでおります。」

□随想□

旅人のふるさと

カスキローナ

納 健（絵も）

彫刻家

未知の土地でひとりぼっちの淋しさに耐えるとき、いつもふるさと神戸に想いをはせ、友やその雑然とした日常の生活が無性に恋しくなった。こうした放浪の旅のなかでどうしても忘れたい土地というものは、どこか自分の故郷を感じさせる親しみのあるところかもしれない。七カ月のヨーロッパ一人歩き的生活で最も印象深く残っている町はカスキローナだ。ここで味わった生活は今もなお想い出される。首都ストックホルムから離れスエーデンの避暑地として知られている小さな港町。自由でのんびりとして底抜けに親切な人たち。町の若者や年寄やみんなが自分たちの町を心から愛し見知らぬ旅人を兄弟のように暖かく迎えてくれ一緒に楽しむ人たち。彼らと接すればすぐにも肌の暖たかみを感じさせる。たった一週間の滞在にもかかわらず、すっかりここは自分の故郷に帰ったような気持がした。海から吹く潮風の匂い、町のいたるところにもある昔ながらの古い木造の建物など、彼らがガンマルヒュースといっているペンキ塗りの小さな小屋などは、色とりどりの美しさで建ち並び、いこいの場所を思わせる感じ。ちよっぴり哀愁がただよう静かな雰囲気と暖かみは旅愁をかりたてる町であり、他に見るこ



by Ken Osame
Karlskrona Sweden.

とのない情緒を持っている美しい娘さんを多くみかける明るさが楽しかった。

最初この地を訪ねた八月の中旬にはまだ冬の最中で雪が降っていた。お世話になっていたカリエリック氏の里帰りに同行。車で時速一一〇キロのスピードで五時間。竹馬の友であるヘングリ氏をたずねて紹介されたのがキッカケであった。ヘングリ家は夫妻と三人の子供がいて四十才には見えない若々しいヘングリ氏は靴屋の職人であり、町きっての社交人としての人気者である。スウェーデンでは靴屋は町の名士になるらしい。長男のアドレは今年大学に入るインテリでフットボール

アイスホッケーの選手をかねた多忙な日課にもかかわらず唯一の通訳を引き受けてくれた。タドタドしいボクの語学と動作を根気よく理解して伝えようとして努めてくれる。彼もまた大学生ということと町の人気者なのだ。なぜなら大学に入学するのはほんの一部でまれだから。

初対面の夜の歓迎会は色々な知人もまじってドンチャン騒ぎ。べらぼうに高い酒を何度ともなくスコールの連続で目がひんがらめ。夜中三時すぎまでのボーカルの遊びですっかり負けてしまったが、酔いからさめればポケットの中に二倍のお金が入っていた。また歌を唱いすぎた舌のもつれの中で両国の国歌まで飛びだす始末、まるでお祭り気分、クリスマスのようにであった。

パリ・スイスの滞在を終え、再び北国の大地に戻り彼らの中で生活したとき、お互いにもう他人でないような絆で深くむすばれていると感じた。別れる日、まるで息子の別離のように今まで着ていた旅の服をぬがされ、頭のテッペンからつま先までの着るものを用意してくれた。

帽子、ワイシャツ、背広、ネクタイ、タイピンズボンツリ、バンドに靴下、靴とすっかり変りはてた姿は道化師さながらで、笑いと涙の中で抱きあい別れをおしみながらいつまでも手を振っていた。無類のお人好しヘングリ一家はこの旅人の神戸っ子にすっかりなじんでしまったのだ。

第二のふるさとカスキローナ！ボクは再びあの地に帰る。



★ 神戸の文化をすすめるキャンペーン

現代に

密着した
美術館を

津高和一

いよいよ神戸にも美術館が実現しそうである。国際港都という立地条件と、新鮮で明快な自然を背景にして、開放的で現代感覚の持主たちが在住する神戸という都市は明日への期待に胸ふくらませ、現代生活と直続した現代の美術館の出現を待望している。神戸はこのような可能性と、未来への飛躍を内包した風土なのだ。手前勝手な旧態依然とした前近代的な美術館をデッチあげたり、主客転倒の現実と遊離した観念的で形骸にひとしい、変に権威化したオザナリの美術館などがもし出現したら、それこそ笑いのだろう。だがこの危険な事大主義が大手をふって通用しそうなのが現代なのだ。そしてこの風化した表面的な、公約数的な概念は、有名無実な都市の装飾的で形式的な置物のような美術館を平気で登場させる。

それがいかに無用の長物だと力説しても、長年の錯覚はロウコトとして残存して、バ、を利かす。柔軟

で、余裕を持ち、もちろん明日への無限のバイタリテイの根拠となる現代美術館など反対に一笑にふされたりするので。

この因子は遠く戦後の他動的で形式的な民主主義が、自我意識を貧困に導いたともいえる。考えるまでもなく異った意味で、浅薄な自称他称の芸術をハンランさせ、また既往の専門家中の専門家と思いこむ元美術館長の識見と肩書きは現代美術も同時に理解者であると錯覚するのだ。この安易な権威のウ・呑みと、無批判な現象の許容マスコミの鼻もちならない醜態である。この間隙はとんでもない微温的で有害な状態でビ・マンした。

そして美術がさも特別で、もったいぶった有様で庶民の目をゴマ化すのである。それもこれも無関心のまあまあの妥協を通用させてしまいう後で気がつくテン・カン病ではないが、いつまでも重くのしかかって離れない、誰のものでもない美術館として存在してしまうのだ。このように不本意ながら面壁し、対面をヨギなくさせられてからでは後の祭りというものである。発言は事前になさなければ意味がない。だがたいがいハッポボ

敷に置かれるのが落ちのようだ。芸術は、日常生活の中で生き続けている。現実に対応してこそ始めて現代に密着した美術館といえるのだ。

私はこのような現代美術館が今後続々と出現してこそ意義ある真の美の了解者となり、庶民の美術館としても存在理由が明快となると思う。美術は国境を超越する。

ケチ臭い郷党意識など通用しない。また画壇という派閥など、もののカズにしない冷静な客観性が重視されるべきだと思う。よい例は神奈川県鎌倉近代美術館の運営だろう。最後はこれを企画し、運営する人間の問題だ。変な人気取りや、人情と妥協の入り込む余地のない精神の持主でなければならぬ。胸中深く可能を信じ、滲透波及のためには決断できる人材こそすべてを好転させる要因になるからだ。これは物質的な問題ではない。変な特別の逃げ口上など聞いていては現代美術館どころか日本でも最低の美術館になり下ろすことは自明だろう。〈洋画家〉



サラリーマンの 生活の 場

光安義光

われわれは小・中・高・大学と日本の文化・美術について教育され、指導をうけて自分のうちにあるものにある種の刺激と自覚をうながされたと思う。

その間は千里の道も厭わず、地方の民家の郷愁にひたるとか、芸術作品の存在と作家の気風に引かれて美術館を訪れ、あるいはアトリエで味のある芸術論に耳を傾けたものである。

そんなことも学校を卒業し実務についた時から、ほど遠いものとなり、芸術に接する機会をなくしてしまふ。

よほど特別な作品(再びお目に掛れぬとか)であれば無理に時間を作ってまでも出かける位でこれが一般サラリーマンの姿であろう。

手軽に芸術に接する場は、デパートの展覧会・映画芸術という映画館・市中部の会館における音楽会が劇場での演劇観賞となる。

鳴物入りで騒がれて、何十万という動員を誇り、これが国民の教

育度の深度を示すかのやりかたは邪道であって、芸術観賞の方法ではなからう。

しかし、われわれは社会に出た途端に文化的導きから絶縁されている状態に置かれると、殊更に欲求不満に陥り、静かな環境での芸術タッチにあこがれるのである。専門的といえるほど深い造けいの人々は交通・距離・時間・金を問題にしないであらう。

真に県民のための美術館というのは、社会に出た健全なサラリーマンをさすのではなからうか？ 言い換えれば、健全な麻雀メン・バチンコ族・OL族とか映画族の文化的に閉鎖された人々を対象にしなければ「真に県民」の言葉が生かされないであらう。

新しい美術館はビジネスセンターとかコマーションセンターに設けるべきである。昼の一時をあるいは買物の帰りに、仕事の帰りに気軽に立寄れるギャラリーであるべきだろう。スピーディな生活の一駒に合せなければ高度な施設も活用されなれぬと思う。

静かな環境は公園の中を意味しない。建物の壁と天井に囲まれた空間に静ひつな場を現代建築は提供することができぬ。

神戸で言えばトア・ロードとか国際会館、ホテル・ニューポルト、

関電ビルあるいは元町通りといったところに求めると、都心の気持よい街区の中に、現代のテンポに適した近代美術館を夢見ることができぬと思う。ニューヨークの近代美術館・グッゲンハイム美術館・パリの近代美術館・東京、京橋の国立近代美術館・名古屋の美術館・倉敷の大原美術館など、企画の良否は別として、市民生活の一日の時間帯に属していると言える。

そこでは常に特別企画展を開催し、サラリーマンの心のオアシスになってもらいたいのである。

(建築家)



★ある集い＝その足あと★



神戸小型映画友の会

本田裕信

神戸小型映画友の会が発足したのは、8ミリが現在のように普及してなかった頃、昭和三十三年九月のことで、全国的組織の友の会としてはもっとも古顔の一つであるが、実際には当会の生い立ちにはさらに古いのである。

昭和三十年頃、戦後ぼつぼつ8ミリを始める人が出て来た頃、神戸にはすでに相当数のマニアがいて、自然に集ってグループを作り例会を催していたものである。その頃日本の8ミリ界には、ナクサとCACAの二つの会があつてそれぞれ活躍していたが、昭和三十三年七月、神戸市内の8ミリ愛好家によって、神戸アマチュア・シネ・サークルが結成され、箕面に居住されている世界的8ミリ作家沖中陽明氏ならびに関西8ミリ界

の雄、今枝柳蛙氏をお招きして新聞会館4階集會室で発会式を挙行そして九月、神戸小型映画友の会としての初例会を市立産業会館で開催、会長には池沢和雄氏（現相談役）が就任された。当時の会員は現在当会々長の川上忠司氏、市広報課に勤務されている安田博司氏、それに私を含めて八名であった。現在の当会は、そうした良き先輩達が築いた足跡を汚すことなく立派に受継いで成長し、今も沖中陽明先生のドキュメンタル・リアリズムの精神は、当会の根強いバックボーンとして育っている。

私と共に8ミリを楽しみながら育ってきた会員も初期の八名に対し六〇数名という大世帯になった。その顔ぶれも、学生、医師、社長、質商、洋服商、理髪業、船員、税理士、国鉄機関士、自動車運転手、浴場の主人、料理屋の主人、警察官、会社員、公務員、芸能人など実に多士済々。まことに賑やかな例会風景が毎月第二月曜日に市医師会館ホールで見られる。例会の催しも始めの頃は無声かレコードだけのBGMだったが今ではテープ録音がほとんど、中には磁気フィルムのマニアも生れてきた。そしてついにはシネスコ作品が登場したのである。フィルムも黒白からカラーへと移り、最近の例会では「シングル8」が素

晴らしい画面で私たちを脅やかしている。しかしこの八年間、徒らに時を過ごしてきたのではない。すでにメンバーの中からは、東京国際コンクール入選者や全日本アマチュア映画コンクール入賞者を始め、富士、さくらコンテスト、全国8ミリシネマコンテスト、全国ノーカットコンテストなど上位入賞者が数多く輩出している。

創立以来今日まで実に五五〇本余の作品を上映、過去七回の発表映写会を開催して市内の8ミリファンや家族の方々から好評を拍している。また、リサیتالでは川上忠司氏が山岳映画で、竹村まこと氏と私が合同で映写会を催し、この夏ふたたび竹村氏が最近作を新聞会館で披露して今や神戸における屈指の8ミリ作家になっている。変わったところでは石垣又平氏が8ミリで交通安全映画をつくりすでに朝日TV婦人の時間で放送され話題を呼んだことは有名である。当会のモットーは、会員一人一人が己の作品に沈潜して磨きあげることを目標にしている。すなわち会員それぞれの個性に応じた作品を作ればよいのである。従ってそこには特定の指導者による特定のカラーの發揮ということはないや考えられない時期にきているのである。

（神戸小型映画友の会副会長）
「明日の映像派」派人

1 グラビア七頁参照



呉
邦
隆
織
み
よ
こ
や

電話神戸③三三八八〇九番
 大阪店 阪神百貨店三階
 電話 大阪 ④五五四八番
 姫路店 やまとやしき百貨店三階
 電話 姫路 ②一二二一番
 衣裳部 三宮町三丁目柳筋
 電話 ③五一六五番

優雅と気品ある
 仲庭の宝石
 貴金属・時計



宝石・貴金属・時計

仲庭

さんちかタウン (39) 4593
 梅田新道 堂ビル北 (364) 0215
 桜橋 毎日新聞社前 (341) 0412
 新大阪ステーションストア
 大阪ロイヤルホテルセイコーショップ

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西店 / 三宮センター街・電話 33-8836 (代)

東店 / 三宮センター街・電話 33-0629

三宮店 / 三宮地下街・電話 39-4303

新橋店 / 新橋2丁目・電話 571-0807

銀座店 / 京阪神銀座タウン・電話 572-4847 (直)
(西銀座7丁目・並木通)

どこにもない味
ヒロタのシューアイスクリーム
三つの味誕生
ストロベリー
チョコレート
バニラ



洋菓子の
ヒロタ

元町店・三宮店・三宮秀品店

□ 随想 □

古事記と

維新と

番町と

平野一郎
え・津高和一

「わが身は、なりなりてなり合わざるところ、一処あり」「わが身は、なりなりてなり余れるところ、一処あり。故、このわが身のなり余れるところを、汝が身のなり合わざるところにさしふさぎて、国うみなさんとおもうがいかに」「しか、よけん」と申したまいき「しからば、吾と汝と、この天の御柱とゆきめぐりあいて、みとのまぐあいせな」と申したまいき。

まことに音吐朗々とは、こういうのをいうのだらうと思える読みっぷりであった。永松忠雄教授の目は、ひとりひとりの学生をジロリジロリとにらみすえ、ニコリともしない。「古事記」国生みのくだりなのである。(その永松教授には、二十数年ぶりに偶然お目にかかった。育英高校が春の選抜野球の代表校に選ばれて、あいさつに来られたのだ。「アッ、永松先生……」と思った瞬間に、

「あなにやしえ男を」のくだりがよみがえって、先生のお顔が、春がすみにつつまれたように見えた。

国生み。その淡路の鳥影が眼下にひろがる五色山のあたりを、ぶらぶらしながら、高丸陸を下った。垂水の浜には海神社があった。

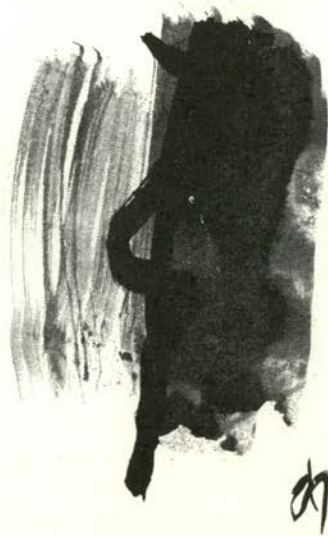
朝の参りは 海神さまへ
願をとくやら かけるやら

よいとこ 播磨の垂水町
沖の漁火 夜ごとに燃えて

淡路恋しや なつかしや
ファイア・ストームでおどる。夜があける。六

尺をヒラヒラさせて、のびのびと泳いだ。明石海峡の潮にのって、はいろこんできたフカに食いつかれなかったための用心だとみんないいあった。

目の前には、平磯の灯台があった。山本有三の



戯曲「同志の人々」によって、維新前夜、田中河内介親子の悲憤の死を知っていた。心ならずも、腹かき切り、身を投じねばならなかった痛恨。どんなにか、明治の夜明けを待ち望んだであろう。

垂水の浜に寝そべって、甲羅をほしながら、平磯で、つぎつぎ船を難破させた、といわれるほどの田中河内介らの生への執念が、胸のなかでキリキリうずまいていた。やがて、もう兵隊だ、死に行かねばならぬ。が、もっと、知っておきたいことがある。もっと、もっと、もっと……。

二十数年前、神戸高商でまなんでいたころの、あのひたむきな若さが、今さらのようになつかしい。

不思議に命ながらえて、新聞記者になった。「ほんとのことを、知りたい」「この目と、この耳で、真実をたしかめたい」と思い、思いしながら二十年たった。

いま、わが朝日新聞神戸支局の窓からは、北に好きな緑の背山がせまっている。東に生田署。ここからダイエービルのあたりまで。鉄筋ビルと車の洪水だが、わたしには、まぼろしでなく、勝海舟の塾がそこに見える。明治維新といえは、勝海舟と坂本竜馬を思うのだ。勝は、体制のなかにありながら、反体制の筋を一本通して、未来への展望をもっていた。竜馬のケタはずれのスケールの大きさ。少しもあせらず、絶望的な状況にあっても、勇氣と確信を失わなかった師弟の、底抜けのあかるさ。ふたりの出会いの結実が、海軍操練所であり、勝塾だった。商工会議所前にあった操練所から、三宮の塾へむけて、もじやもじや髪の大男の竜馬が何度ゆき来たことであろうか。「つ

けあがらず、泥の中のスズメ貝のように、つねに土を鼻の先へつけ、砂を頭にかぶり」ながら、竜馬の足は、世界と日本を踏んまえて、前進してやまなかったのだ。

江戸町、京町、浪花町、明石町。竜馬の魅力にとりつかれながら、わたしの足はメリケン波止場へむかう。船だまりに、はしげがもやっている。六甲、摩耶、布引、諏訪山、再度山、高取、鶴越、鉄拐、一の谷、鉢伏……。

いいな、と思う。ええやろ、とひとに自慢する。が……。

港灣荷役に、ゴミやくみ取りの都市清掃に、ゴミ産業に、はたらく人々の実態はどうなのか。

番町をあるいた。IVルックのはきものを、せつせと縫合せしていたおかあさんがいった。

「うちの息子は、さいわい勉強がきらいやから安心ですわ」

上の娘は、よくできた。高校を一番で出た。一流銀行を受けて、はねられた。身も世もなかった母娘のかなしみ。勉強のできが悪ければ、こんな高望みも、こんなつらい思いもしないですむ。あきらめのほほえみを、口もとにうかべて、母はいうのである。

「ほんまに、うちの息子は孝行もんや。助かります」

あのおおらかな古代人に見られなかったきびしい差別が、拡大再生産されている。わが竜馬や吉田松蔭らが不幸たおれたため不徹底に終った維新の民主主義的変革。それにしても、あれからもう百年たっているではないか。

(朝日新聞神戸支局長)

□ 随想 □

私のふるさと

小原 稚子

神戸、こうべ、KOBÉ——どう書いてみても私にとっては、その中に「ふるさと」のニュアンスが感じられる。四年あまりの外国生活の間、私はホームシックに一度もかからなかった。勉強が忙しく、日々の生活に追いまくられていたからかもしれない。しかし、「ふるさと」は遠きにありて思ふもの」という詩の一節にもあるように、私もやはり「ふるさと」のことを思うことはしばしばであった。そんなとき、私が思い出したのは日本という国ではない。

私になつかしく思ったのは「よき時代」の日本でもなければ、現実の日本でもない。それはなつかしい町、神戸。私にとって神戸が日本であろうが、ヨーロッパのどこかに引越そうが問題ではない。いつも神戸という不思議な町が、日本地図から浮き上がっていて、その独特のふんいきが周囲とは無関係に私の中に生きていた。それは日本の中の神戸ではなく、神戸そのものであった。私はアメリカに一生住むのはごめん。しかしもし神戸ごとアメリカのどこかに移ってくるというなら、私は喜び勇んでそこに住みついて、一生日本に帰らなかつたかも知れない。神戸のなくなった日本はもはや私にとって「ふるさと」ではないの

だから。

港神戸とよくいわれるが、そのとおり神戸は東の横浜に対して西の国際港である。私は神戸育ちだから、当然、横浜や長崎のような港の見える町に親しみとなつかしさを覚える。港から出て行く外国船は、見知らぬ別の世界に帰っていき、また別世界のおいをいっぱい積んでやってくる。港を見ていると、私と別世界とが、海やそこに浮かぶ船によって結ばれていることをからだで感じる。港の防波堤の向こうには無限の可能性が開けているのだという気持を、私は子どものころから無意識の中の意識としてはっきりもっていたように思う。

ほかの町がそうであるように、神戸とその郊外も私の子ども時代からはずいぶん変わった。しかし私の住んでいる御影には、子どものころの楽しい思い出に色どられている小川や小道や曲がり角はそのままだ。東京や大阪のまん中に住んでいる子どもたちにくらべて、この付近の子どものたちはいまでも青空の下で遊べるというのはなんとしあわせなことだろう。うしろにそびえる六甲の山々と、前にひらける海に両手をふって、「ありがたう」といいたいような気持になる。

神戸っ子は新しいものが好きだ。明治のころに六甲山に日本最初のゴルフ場をつくり、男女ともにゴルフを楽しんだり、最近では「主婦の店」、つまりスーパーマーケットを他にさががけてつくってみたり。そしてこんどは、瀬戸内海に浮かぶ淡路島に船で行くのはめんどろだからと橋をかけることにした。ちょうど、「源氏物語」に出てくる明石、須磨のあたりから、「夢の浮橋」ならぬ「夢の懸橋」をつくると、県の土木課は張り切っている。

新しいもの好みというのはハイカラ精神に結びつく。神戸で買物するのは楽しいと東京の人もいう。これは町から山や海が見えて、空気がいいというだけが理由ではない。店のウインドーなど神戸の伝統的ハイカラ調が生かされていて、人々の目を楽しませてくれる。物価も東京にくらべれば問題にならないほど安い。ハイカラなのは、もちろん神戸が港町で外国との接触が多いのが原因だ。しかし神戸人には、外国調を平気で、わるくいえば無神経に、どんどん吸収して町のカラーにしてしまう開放性があるのは事実である。

開放的で新しいものに寛容であるという一方に傾いてしまっているために、かなしいかな神戸は文化不毛の地である。伝統文化は何もない。多くの名所旧跡にもこれといって予算をとって保護するふうでもない。十二世紀に一時、平清盛が都をもった福原は、いまでは楠正成がまつつてある湊川神社付近であったということさえ知らない人も多い。「平家物語」で名高い敦盛が討たれた一の谷古戦場や、義経の鴨越の逆落とらの話など知

らない人がほとんどである。この付近は不便だから知らない人が多いというのではなく、そういう過去のことに興味がないのだ。神戸っ子にも大阪商人のような商魂があれば、いまごろ一の谷付近は茶店、みやげ店がひしめいて、「敦盛せんべい」とかを売っているにちがいない。

もうだいたいぶ前に読んだのでうろおぼえなのだが横光利一の『旅愁』の中で、朝鮮から日本に来た踊り子が神戸に立ち寄り、「世界にもこんなすばらしいところがあったのか」と、なにかたまらない気持ちになり、母国に帰ったのち、世をはかなんで俗界から身をひいてしまった——という話を主人公がしているところがあった。作者が神戸をこんなふうに書いていたことが、私にとってはショックであった。もちろんうれいしいショックである。神戸の白っぽい土の中には私という人間のすべがしみこんでいる。いや神戸の土のにおいが私の指先にいたるまでしみこんでいるといったほうが正確である。私がアメリカに行っていたというのも、アメリカのにおいが私についていたのではなくて、この土のにおいが自然に私をアメリカのほうを向かせたにすぎない。たとえこの白い土がダンブカーに運ばれて海の埋め立てに使われても私はかまわない。なぜならこの神戸の土はすでに私のうちに息づいているのだから——。神戸の町がもし消えてしまったとしても、私はやはり自分を「神戸っ子」と呼ぶだろう。

△小原流渉外部外国課▽

主婦の友社発行の随筆紀行

「稚子・日本をあるく」より抜萃

エレガントなご進物・ご家庭用に

マドレーヌ



10ヶ詰 ¥ 500

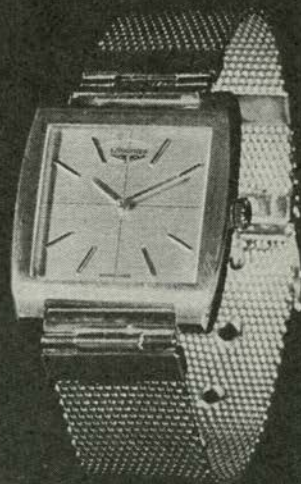
北 欧 の 銘 菓 ユ ー ハ イ ム コ ン フ ェ ク ト

本社・工場 / 神戸熊内町1丁目 TEL22-1164・9865
熊内店 / (市立美術館東隣)
三宮店 / 神戸三宮生田筋(階上喫茶室) TEL33-7343-0156・4314
神戸デパート店 / 長田区大橋5丁目 TEL 61-2101
甲子園店 / 国鉄甲子園口駅(北口)・芦屋店 / 国鉄芦屋駅前通・堂島
営業所 / 大阪堂島中町ビル地階・梅田店 / 大阪梅田地下センター・
栄町店 / 名古屋栄町ビル地階・千種工場 / 名古屋千種区若水町・大
丸店 / 神戸・京都・阪急店 / 神戸・大阪・三越店 / 神戸・丸栄店 /
名古屋・オリエンタル中村 / 名古屋・大阪国際空港・神戸鉄道弘済
会・丸物店 / 岐阜・豊橋



LONGINES

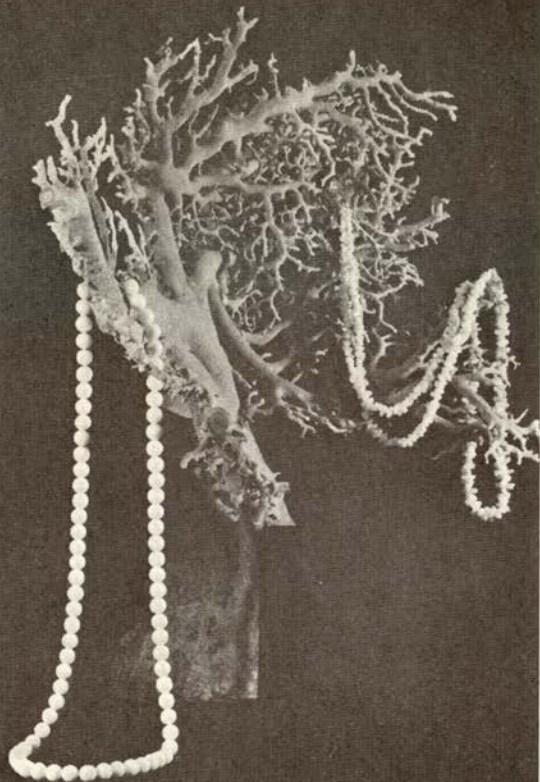
ロンジンをおもてめるときには
神戸でもっとも豊富にロンジンの
そろったさんちかファンシータウン
美田時計店へおこし下さい



特約店

美田時計店

元町店・元町三丁目 TEL33-1798
三宮店・三宮地下街 TEL33-8798



nomiyama さんごとカメオ専門店

ノミヤマ

神戸国際会館アーケード TEL (22) 8161 (内線) 333
 本社工場
 神戸市箕合区上筒井通1ノ20 TEL (22) 2070

かわいいあなたをより一層チャーム
 する神戸眼鏡院のメガネ



おしゃれ



メガネの

神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎ 33 3112代

三宮店・さんちかタウン ☎ 39 1894~5